

くまもと面白漫遊記

～宮川広報委員のおすすめのこの町・この人～

No.18
八代地区

秘境・五家荘に生きる 久連子古代踊り

まさに秘境、ここまで逃げなければならなかったのか…。
泉村の奥深い山懐に平家落人伝説の残る五家荘はある。
追手を逃れた平家の落人は、この地で何を思い、
どんな暮らしをしたのか、訪れる人に歴史への胸の
高まりを与えてくれる。

平家の落人が遠き都を思い、妻や子を思って舞った
とされるのが「久連子古代踊り」。
久連子鶏という、久連子地区にしか生息しない
鶏の長い尾羽で顔を隠して踊る姿は、
どこか、せつなく、哀しい…。

800年の時を超えて、この地に受け継がれた
文化の重みが、脊梁山脈にひびく…。



泉村役場所蔵

泉村役場から、道の所々に残雪を見ながら車を走らせること1時間余り、紅葉の名所として有名な五家荘へ入る。八代郡泉村五家荘とは、仁田尾、樅木、久連子、椎原、葉木の五つの地区を呼び、1000メートルを超える山々に抱かれた集落の人々は、林業・農業を主体に暮らしている。大自然の観光地として名高い梅の木轟公園吊橋、樅木の吊橋、せんだん轟の吊橋などは絶好の散策コースとなっている。宮川広報委員とKUMAKEN取材班は、秘境の景観を堪能しながら、久連子へと急ぐ。



泉村役場所蔵

都を偲び、妻や子を思う舞いが8百年の時を超える 久連子鶏の羽飾りで顔を隠した平家の落人の思い

「平家であらざれば人でなし」とまで云われ隆盛を誇った平家が壇ノ浦の合戦（1185）で源氏に滅ぼされた後、左中将・平清経の子孫がたどりついたとされるのが、五家荘の椎原、葉木、そして、久連子。姓を緒方と改め、この一帯を支配したと云われている。その久連子地区に伝承されている「久連子古代踊り」が今回の主役。国の民俗重要無形文化財となっているこの踊りこそが、平家落人伝説を現代に語り継ぐ、生きた文化なのである。

「久連子古代踊り」は、毎年8月15日、9月1日、11月3日に披露される。

久連子の伝統、暮らしぶりを紹介するテーマ館『久連子古代の里』を訪ねた。

『久連子古代踊り』のお話をうかがったのは、久連子古代踊り保存会会長になって5年の仲川義人さん（81歳）。その年齢を感じさせない生き生き、はつらつとした笑顔、そして、仲川さんの言葉からは、800年間という伝統を守り続けてきた自信にあふれていた。



仲川義人さん



久連子古代の里



久連子鶏

宮川委員 Q：仲川さんは、「久連子古代踊り」を続けて何年ですか？

仲川さん A：16才の時にはじめましたので、もう65年になります。

尋常小学校を卒業したら久連子の男は全員、参加して踊りを覚えなければならなかったんですよ。青年団に入った男性は全員です。当時15～6人はいましたね。

踊りは複雑で難しく、しかも、覚えるのは、すべて見習い、聞き習い。師匠は私の父でしたが、指導はとても厳しかったですよ。でも、TVも無い時代ですし、道路も整備されていなかったので、踊りだけが楽しみでしたね。

だから、今まで続けてきたのではないのでしょうか。

宮川委員 Q：現在、保存会のメンバーは？

仲川さん A：13人です。20歳代が1人いますが、殆どが65歳以上になりました。

宮川委員 Q：久連子古代踊りの歴史と特徴について教えてください。

仲川さん A：久連子に住みついた平家の落人たちが都を思い、都に残した妻や子を思い踊ったのがこの「久連子古代踊り」です。

「久連子古代踊り」と呼ばれるようになったのは、昭和47年熊本県の無形文化財に指定された頃からでそれまでは臼太鼓踊り、太鼓踊りと呼ばれていました。

現在は、国の民俗重要無形文化財です。

踊りは、実は、33種類あります。1種類が約15分程かかりますので全部踊ると1日かかりますね。現在、踊っているのは、そのうち5種類です。

太鼓はすべて手製で、鹿の皮を使っています。昔は、カモシカを使っていたようですが…。胴はクルミの木です。また、鶏の尾羽を飾りにした冠をかぶるのが大



泉村役場所蔵



泉村役場所蔵



きな特徴です。

これは、久連子にしか生息しない県の天然記念物に指定されている鶏「久連子鶏」の尾羽を使ったものです。



踊歌本

宮川委員 Q：なぜ、久連子鶏の尾羽を冠に？

仲川さん A：平家の落人、長い鶏の羽で顔を隠したの
でしょう。

宮川委員 Q：落人の悲しさ、切なさを感じますね。

今でも太鼓や冠は皆さんで作られるのですか？



仲川さん

仲川さん A：もちろん！太鼓も作りますし、久連子鶏
も踊る人たちがその羽のために育ててい
るんです。

鶏の尾羽は、100年以上使います。私の冠は、65年同じものをかぶってますよ。
長いもので40センチ、一つの冠に400本以上ついてます。

艶がいい時、尾羽を抜きます。

久連子鶏は、他人に譲渡できません。

一時期、私が持っていた2羽しか残っていなかったんですが、それを何とか増
やして、現在は100羽になりました。

私は今、30羽育てています。家族みんなで面倒をみますよ。

久連子鶏の寿命は、ふつうは5～6年。長く生きた鶏で12年というのもありま
した。

『久連子古代踊り』歌踊本より(蔵本軍蔵氏編纂)

◎高き山

高き山より思ひをかきゆやれ
思ひをかきゆやれなみのかず
思ばしゆめて夢見を見せて
つれなる君にをもかけよ
志のぶしゆぢに柳をうえて
いとど心にみだるるに

これは「久連子古代踊り」の冒頭の部分。源氏の追手から逃れ、山深い里に身を置く平家の心境がここから切々と唄われていく。時代に翻弄されながらも、平家という誇り、品格を漂わせる歌詞が続く中、太鼓と鐘の音が叙情的な雰囲気演出している。臼太鼓といえば、勇壮で豪快なものを連想するが、『久連子古代踊り』は、その鼓動や舞いが哀愁に満ちているようだ。久連子古代の里の3Dシアターでそのルーツを体験できる。

久連子古代踊りは私の宝です 仲川さんの笑顔が一層輝く 久連子古代の里の劇場に受け継がれる歴史

『久連子古代の里』は、五家荘の暮らしと久連子古代踊りを解説した資料館と杉材を使った素晴らしい劇場、物産館などが併設され、6年前に完成した。シャクナゲハウスや久連子鶏の飼育展示施設もあり、久連子地区の生活文化が体感できる。

宮川委員 Q：いい施設ができましたね。

仲川さん A：いい展示館を造っていただきました。

交通の道がよくなれば、もっと多くの皆さんが来てくれると思いますし、今、久連子は人口50人弱ですが過疎も少しはおさまるかもしれません。

宮川委員 Q：この久連子で暮らしてきて、今、思うことは？

仲川さん A：林業関係の仕事や焼畑、木場（こば＝焼き払い耕地）をつくる仕事をしてきました。

ここで生まれ育って、久連子古代踊りを踊って、暮らしの中心にいつも踊りがあったような気がします。

800年以上も続いている熊本の民俗芸能は他にありません。

熊本県一古い民俗芸能を受け継いできたということだけでも大変なことだと思



3Dシアター



劇場

ます。

今、保存会の仲間と練習した後、一緒に焼酎を飲むのが楽しみです。



宮川委員 Q：仲川さんにとって、久連子古代踊りとは？

仲川さん A：私の宝です。

泉村に国の文化財があるのは久連子だけです。これからも古代踊りを引き継いでいくために回りの理解を受けて、貴重な文化財を守っていかなければなりません。

問題は後継者です。

小学校が統合していく時代の中で、次の世代に引き継いでいくことは難しいことですが、頑張ります。

これからも機会があれば、どんどんいろんな所へ出かけ、踊りを披露したいと思います。

仲川さんの誇りが踊り伝承の原動力に

宮川委員・取材を終えて

保存会会長の仲川さんは、その年齢とは思えぬ若々しい顔のつや、元気な声でいろんな事を教えてくださいました。それだけでも往復5時間の山道を運転した甲斐がありました。『久連子古代踊り』は、いわば人間の感情を踊りに託して、長い時間を生き続ける魂の踊りのような気がします。古代踊りの中に「念仏踊り」というのがありますが、これもその表れのような気がします。

それにしても文化財として、優れたこの踊りが久連子に生き続けるために仲川さんたちをはじめ、保存会の皆さんの誇りを原動力に何かを仕掛けることができないものかと感じます。逆に、久連子に来ないと見られないという価値観が人々に足を向けさせる方法でしょうか。泉村の自然の中で身も心も解放された時、この『久連子古代踊り』をじっくり見てみたいと思います。

仲川さんたち保存会の皆さんの今後の活躍に期待しています。

■ 連絡先

久連子古代の里 熊本県八代郡泉村大字久連子72
TEL 0965-67-5049

■ 参考文献

踊歌本 蔵本軍蔵氏編纂
久連子古代踊り調査報告書 村田 熙